



MORAMORA

マダガスカル通信 第6号 2022年12月15日

ビバ20周年！

Manao ahoana! マダガスカルに協力隊が派遣されて今年で20周年だそうで、12月10日(土)に記念行事が開催されました。首都のど真ん中にあるスアラヌ駅の駅舎を貸し切り、マダガスカルの首相や日本の大使が参加するビッグイベントとなりました。

先輩隊員さんたちから寄せられたビデオレターの上映があり、みなさんマダガスカルに対する強い思い入れを語っておられました。これまでたくさんの先輩方が任地で信頼関係を築いてこられ、そのおかげで私たちの今の活動が成り立っていることを感じました。今度は僕が関係を崩してしまわないように気をつけ、今後来られる隊員さんにつなげられたらと思います。

駅舎の中には9つのブース、ステージ、展示コーナーなどが設けられました。お客さんがたくさん来てくれて、会場の外に行列ができるほど。うちの大家さんを招待していたのですが、姿を見かけないな~と思っていたら、長蛇の列を見てあきらめて帰ってしまったそうです。



僕はブースで教育アクティビティのワークショップをしつつ、ステージで上を向いて歩こうを演奏したり、マツケンサンバを踊ったりしました。マツケン役のオファーを受けたとき、「本当に自分でいいのかな…」と悩んだのですが、思い切ってやってみてよかった。金ピカ着物でサンバステップを踏むというカオスな経験ができました。

今回の記念行事はたくさんの人に協力隊活動に親しんでもらうことができ、大成功だったと思います。次回は10年後と考えると気の遠くなる思いがします。そのとき僕はどこで何をしているのかな…。

マダガスカルに向けてビデオレターを送っていたら楽しいな…。

長谷川 太郎

出身：大阪府 職業：小学校教諭

協力隊に参加した理由：帰国後、日本の子どもたちに世界のことを伝えるため。

隊次：2021年度1次隊 職種：小学校教育 任地：アンズズルベ

活動内容：5~6校の小学校を巡回し、各校の先生といっしょに算数、理科、体育などの授業を行う。

